

令和元年度あいち医療ツーリズム推進協議会 議事概要

日 時：令和2年2月14日（金）午後4時から午後4時50分まで

場 所：愛知県自治研修所7階 701教室

出席者：（委員）13名（代理含む）

（事務局）保健医療局長、健康医務部長、医務課長 他

傍聴者：4名

1 挨拶（愛知県保健医療局 吉田局長）

2 議題

(1) 令和元年度の医療ツーリズム推進に係る取組状況について

（愛知県医務課 米田課長補佐等）

- 資料1により、以下について説明
 - ①あいち医療ツーリズム推進協議会
 - ②県内医療機関への情報提供等支援
 - ③国際医療コーディネーター育成研修
 - ④海外PR
 - ⑤医療機関向けアンケート
 - ⑥国家戦略特区

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- 今の説明について御意見はあるか。
→特になし

(2) 令和2年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定について

（愛知県医務課 米田課長補佐）

- 資料2により、以下について説明（令和元年度2月県議会での予算案の可決を条件）
 - ①あいち医療ツーリズム推進協議会

- ②アドバイザー派遣
- ③国際医療コーディネーター育成研修
- ④医療機関向けアンケート
- ⑤海外PR

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ただ今の説明について御意見はあるか。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 海外PRに今回藤田と私どもは出ていないが、それはこの運営を巡って県と食い違いが出てきたから。海外PRは良いことだが、これを運営するにあたって旅行業者の選定とかそういったことをきちっとやってもらわないといけないということだけはお願いしておきたい。そうしないと中部メディカルトラベル協会は参加しにくい。A社は名前は良いが実際現場に入って何も仕事をしないという問題点があって、一昨年協会が非常に苦労したといういきさつがあったが、昨年もまたA社が業者に選定された。一昨年にそういうトラブルがあって、昨年もA社だということで参加を見合わせた。県が悪いわけではないがスムーズにやっていただきたい。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 今年度ご一緒に進めることができなかったことについては大変残念だったと思っているが、海外PR事業の実施に当たっては、毎年企画競争方式というものをとっている。企画選定募集要領を作成し説明会を開いて要領の中身について説明し、その要領に沿う形で各業者に企画提案をしていただいている。提案をしていただき審査基準に基づき採点をするようなかたちになるが、審査基準に基づいて厳正に審査を行って業者を選定していきたいと思っている。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 業者はまだ決まっていないのか。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 来年度に入って早々に行うことになると思う。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 出展する医療機関は出展費用というのは医療機関持ちということになるのか。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 出展費用については、愛知県の方から業務を委託するような形で契約をさせていただき、その委託料の範囲内でブースの出展料とかを支出していただくことになる。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ちなみにいくらくらいか。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 今年度の場合だと業務委託全体の額で約 750 万円くらいになる。ブース出展料はその内訳になる。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- このぐらいの額だと出展する医療機関は持ち出し。持ち出しは覚悟して相手のためと思ってやってきたが、A社がその一部を持って行く。持って行ってもいいがちゃんと仕事をしてくれればいいのだが。私は参加してないが、木村事務長の評価だと全然仕事しないという話である。それで去年は参加できないと。したがって業者選ぶのもきちっとやってもらわないと。責任もってやってもらわないと。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 県にちゃんと責任もってしっかり業者を選んでほしいと。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 今A社の話が出たが、今回出展にあたっての公募要領の中に「中部メディカルトラベル協会と協調して」ということを書いていたので、各旅行会社、今回4社公募されたと思うが、A社以外の3社に関しては協会の方にお越しいただいて、こういう形で出展しようという話を全部させていただいた。お見えにならなかったのがA社だけ。そこが選ばれたので協会としては協力できないということになったので、来年度に関しては私どもと協調させていただくのであれば、公募前にちゃんとお話し合いをさせていただいてこういう方向性で出展しましょうという話し合いが必要だと思う。その辺しっかりやっていただくようによろしくをお願いしたい。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- その他、来年度の取組について何か御意見、あるいは今までの取組についての修正点・ご指摘等はあるか。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- 国際医療コーディネーター研修は一日で医療コーディネーターとして名乗れたりホームページで公表できるのか。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 研修は一日。この研修を受けると資格をもらえるという研修ではないが、その辺は各医療機関の方で考えていただく。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- 研修を受けたということなのでコーディネーターという訳ではないのか。内容はコーディネーターという内容だとは思いますが、名前がどういう意味を持っているのか。自分が研修を受けたから「私は国際医療コーディネーターですよ」と病院の中で名乗れるかどうか。

(愛知県医務課 米田課長補佐)

- 研修の内容は、院内表示を外国語対応したりという外国人患者を受け入れる

環境整備や患者・家族や医療スタッフの支援を行ったり通訳の手配をしたり、そういった諸々の調整をできる人材を育成するというもの。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 国際医療コーディネーター育成研修については、私ども中部メディカルトラベル協会がさせていただいており、今まで外国人を受け入れたことがない医療機関がどうかたちで受け入れたら良いのか、という最初のステップのために、今までは現場の方に来ていただいて実際に医療現場で外国人の受入れがどのような形で行われているかというご説明をさせていただいている。これを受けたからといって決して明日から外国人を受け入れるコーディネーターができるという訳ではない。一施設でも多く外国人の受入れに前向きになっていただく医療機関を増やすための講座なので、名前は国際医療コーディネーター育成となっているが、決してそういう意味ではない。これを受けたからといって資格が出るわけでもない。深い内容の講座ではない。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- 国際医療コーディネーターについては決まった資格ではないので、こちらの研修を実際に受けていただいて、病院の中で動いていただく方を養成しているので、これを受けなければ国際医療コーディネーターを名乗ってはいけないとかいうものではない。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- インターネットやホームページ等で周知するときに、自分の施設にはコーディネーターがいるということを例えば英語や中国語で謳うことができれば海外の患者を受け入れやすくなるという仕組みではないのか。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- 病院の中で決めてもらう話なので、先ほど言ったようにこれがなければ国際医療コーディネーターの病院だと名乗ってはいけないというものではない。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- このコーディネーターがいなくても海外からの医療ツーリズムの受入が可能かどうか。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- もちろんそうである。こういった方を養成することでその医療機関がスムーズに海外からの患者を受入れできるように人材を養成しているので、この人がいないからやってはいけないというものではない。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- 病院の中で育成するのはもちろん大事かもしれないが、そういった方が組織にいないならばそういった方に来ていただいてもということでも良いのか。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- それは結構である。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- あと別添2の日本の医療に関するアンケートだが、これは愛知県に特化した形での質問はされていないのか。これは東京や大阪を含めた日本全般なのか。愛知県独自のアピールポイントというのを質問に入れている訳ではないのか。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- 特に「愛知県の」という質問はしていなかったと思うので、人によっては日本全体のイメージで答えられているかと思う。

(国立長寿医療研究センター 荒井理事長)

- 皆さん日本全体として答えられていると思うので、愛知県独自の質問項目も用意された方が良いのではないかと。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- 次年度検討させていただきたい。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 今良い指摘をいただいたが、愛知県に今要請しているのは愛知県の医療でどうい内容の医療サービスができるかっていうことを調査して中国の展覧会の時に示さないと、医療機関をポンポンと置かれたって中国の人は困る。それを今お願いしているところである。県がそのようにして頂けるかは分からないが、検討していかないと先生が今おっしゃったことに答えられない。

(愛知県医務課 三寄主幹)

- 来年度の実施に向けて検討させていただきたい。

(3)その他

(藤田学園 星長理事長)

- 愛知県というところは特別にありがたいところで、柵木先生がおられる県医師会も協力的であるし、県も積極的に医療ツーリズムをやろうと言っており、こんな県は日本全国探してもめったにないと思うが、それでも愛知県が不利なのは、中国で愛知県・名古屋を残念ながらほとんど誰も知らない。東京・大阪はみんな知っている。それからもう一つ、観光地がない。京都に近いというくらいしかない。これは不利なことだと思う。私はこういうことに力を入れてやってきたが、非常に辛い思いがあり、患者を今年は千人くらい呼びたいと思っているが、なかなかうまくいかない。ましてやコロナウィルスの騒ぎである。県が一生懸命やっているのは分かるが、非常に現場は大変だと思うし、これから新しく始められるのは僕はやめた方がいいと思う。我々あれだけ投資しても患者がこれだけしか来ないのはしんどいと思っている。特に中国人相手は職員が相当疲弊する。わがまま度は普通じゃない。キャンセルは当たり前という人たちなので、そういう人たちを扱える人間をどうやって自分たちで育てていくのかということも非常に大変。これをやるのであればよほど覚悟してやらないと、職員が去って行く。特に医師の確保・看護師の確保。これはある程度専門にしないとイケない。そういう意味では私は自分が始めたが、結構大変だと思

っているところ。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 貴重なご指摘をありがとうございました。ほとんどは中国というのがターゲット国だが絞られてきているということですね。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 星長先生、そう言わないでもう少し我慢しましょうよ。星長先生が指摘されているが、どうやって誘客するかっていう、ここは私どもも四苦八苦している。これは一年や二年で成果が上がることではない。10年単位でやろうと思っている。それでもボツボツとは増えてきてはいる。売上のパーセントで言うと、一昨年度に比べると昨年度は倍になっている。先ほども言ったように愛知県ではどういう医療を受けられるかを明確に、それも特徴的なことをやらなきゃいけないと思っている。一般的な外科手術は中国でもやっているし、アジアで言ったらシンガポールがだいたいしている。陽子線治療やPETの検診、あるいは私が今強調しているのは中国も海外もリハビリがものすごく弱い。そういうセールスポイントはあるので、それをどういう風にアピールするか。中国の展示会でもポイントを戦略的に出していないと。ただ漫然とやっているだけでは患者さんが来るという効果は無いと思う。したがって知恵を絞らないといけないが、そういう協議は協会側と愛知県側で協議をやりながら両方ともにターゲットを絞ってやる。中国人の国民のニーズにこたえられることをやらないといけないが、一般治療よりリハビリとか介護の問題が中国ではきわめて深刻な問題になっているから、ポイントはこれからできてくると思うのでそこを探るのが大事なので、もうちょっと頑張ってみましょう。

(藤田学園 星長理事長)

- 私は責任あるのでやめるわけにはいかないが、そんなに簡単にやられない方がいいと思う。職員が疲弊する。間違いなく。